

# 平成29年 長崎年表

**1月4日** 市議会議場で事務初め式と職員の成人式が行われた。

**1月6日** 市消防局は管内における2016年の火災、救急の発生状況を発表した。出火件数は131件で2015年より31件増加し、救急出動は過去最多の2万4,801件だった。

**1月6日** 市はアメリカのオバマ大統領から自作の折り鶴2羽が贈られたと発表した。東京の米国大使館を訪れた田上市長が、ケネディ駐日大使から市長宛てのメッセージとともに受け取った。

**1月8日** 9日の成人の日を前に、長崎ブリックホールで成人式が行われ、約2,900人の新成人が集まった。市内の新成人は、昨年より48人少ない3,874人。

**1月17日** 市は平和祈念式典で「平和への誓い」を読み上げる被爆者代表を選考する審査会を開き、居住地を問わず公募し選考することを決めた。

**1月18日** 東日本大震災に伴う長崎市職員の福島市への中長期派遣が今年3月末で終了することになり、福島市の山本副市長らが田上市長を訪問、これまでの支援に対する謝意を伝えた。

**1月26日** 経済産業省は「長崎べつ甲」を国の伝統的工芸品に指定した。県内では三川内焼、波佐見焼に次いで3品目。

**1月28日** 中国の春節（旧正月）に合わせて開かれる長崎ランタンフェスティバルが2月11日までの日程で開幕した。高さ約10メートルのメインオブジェ「百鳥（バイニャオ）」は、鳳凰の下にツルやオシドリなどをあしらっている。

**1月28日** 長崎みなとメディカルセンター市民病院の立体駐車場が完成した。これで、新市立病院建設工事の全工程が終了した。

**2月1日** 政府は、世界遺産登録を目指す自然遺産候補の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」と文化遺産候補の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の推薦書を国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出した。

**2月5日** 黒崎東小学校で閉校記念式典が行われた。

同校は2016年4月出津小学校と統合しており、4月からは海外黒崎小学校として新たにスタートする。

**2月6日** 長崎市と市民友好都市提携を結んでいる英国スコットランド、アバディーン市のジョージ・アダム市長が田上市長を表敬訪問した。

**2月13日** ドイツ東部ドレスデンで、第2次世界大戦末期の空襲で被害を受けた住宅の焼け跡から見つかった銀のスプーンが、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館に寄贈された。2016年9月、被爆者の山田一美さんが現地で空襲の被災者と対談した際に贈られたもの。

**2月11日** 2017長崎ランタンフェスティバルが閉幕した。前夜祭を含む期間中16日間の人出は、昨年より約4万人多い約94万人だった。

**2月15日** 市は2017年度一般会計当初予算案を発表した。総額は約2,096億円で、過去最大規模だった前年度に比べ3.4分の減となった。

**2月16日** 長崎工業高校の3年生8人が国指定史跡「出島和蘭商館跡」内の「ミニ出島」に修復した建物の模型5棟を設置した。

**2月19日** 茂木町と宮摺町を結ぶ主要地方道野母崎宿線「立石トンネル」（長さ958メートル）が完成し、開通式が行われた。

**2月20日** 長崎原爆の被爆者を親に持つ「被爆2世」25人が、放射線の遺伝的影響が懸念される2世への援護策を怠った国に1人当たり10万円の慰謝料の支払いを求める国家賠償請求訴訟を長崎地裁に起こした。被爆2世の集団訴訟は17日の広島に次いで2例目。

**2月22日** 市議会の2月定例会が3月16日までの日程で開会した。市長は、施政方針で、「次時代の基盤づくり」を進めるとして、新庁舎建設や長崎駅周辺整備等の大型事業のほか、各地の支所や行政センターを「地域センター」や「総合事務所」に再編して機能を見直すことなどについて述べた。

**2月27日** 国指定史跡「出島和蘭商館跡」と対岸の江戸町とを結ぶ出島表門橋の架設作業が行われ、現場周辺には約2,000人の見物客が訪れた。今後、周辺の公園などが整備される。

# 平成29年 長崎年表

**2月28日** 市中心部のイオン銅座店が閉店した。1969年11月福岡市に本社を置くスーパー測上丸栄長崎店として開業したのが始まり。

**3月5日** 県は、県内で唯一輸出入用コンテナを積み下ろしできる長崎港小ヶ倉柳地区の西側岸壁に新たなクレーンを設置した。高さ約57メートルで免震装置が付いている。

**3月12日** 市と高浜青年団は、以下宿町海岸の県指定天然記念物「夫婦岩」の綱飾りをおよそ37年ぶりに架け替えた。新しい綱飾りは長さ約15メートル、重さ約200キログラム。

**3月13日** 市は、8月9日の平和祈念式典で平和への誓いを読み上げる被爆者代表の公募を締め切り、国内外から21人の応募があったことを明らかにした。4月の審査会で選定する。

**3月13日** 経済産業省は、さまざまな機器をインターネットにつなげる「モノのインターネット（IoT）」の普及やビジネス化を目指す自治体を支援する「地方版IoT推進ラボ」第2回選定地域に長崎県と長崎市を含む24地域を選出した。

**3月15日** 県内のほとんどの公立中学校で卒業式が行われた。県教委によると、本年度の公立中学校の県内の卒業生は約1万2,600人。

**3月17日** 県内のほとんどの公立小学校で卒業式が行われた。県教委によると、今春卒業する県内の児童は約1万2,000人。

**3月18日** 新大工町市場が閉店し、68年の歴史に幕を下ろした。跡地は商業施設とマンションの複合施設になる予定。

**3月19日** 下黒崎町に「外海潜伏キリシタン文化資料館」がオープンした。市の補助を受け、地区住民らでつくる外海文化愛好会が空き家を改修して資料を展示している。

**3月21日** 国土交通省は公示地価（2017年1月1日現在）を発表した。長崎市の全用途平均変動率は0.6パーセントでプラスに転じた。

**3月29日** 国土交通省九州運輸局は、長崎交通圏におけるタクシーの供給過剰対策として、長崎交通圏タクシ

ー特定協議会が申請した計画を認可した。約15パーセントの減車目標などが盛り込まれた。

**3月31日** 協岬町の県亜熱帯植物園が閉園した。1969年6月の開園から約半世紀で、歴史に幕を下ろした。

**3月31日** 県と長崎市、佐世保市は1981年以前の旧耐震基準で建てられた大規模建築物の耐震診断結果を公表した。長崎市内の対象53施設のうち震度6強から7程度の地震で倒壊や崩壊の危険性が高い施設は11施設だった。

**4月1日** 科学館の第1天文台が大型天体望遠鏡を入れ替えてリニューアルオープンした。そばに50インチモニターを設置し、モニターからも観察できる。26日で開館20周年を迎える。

**4月1日** 長崎自動車は、訪日外国人旅行者を含めたバス利用者の利便性を高めるため、グラバー園入口など市内9カ所のバス停に無料のWi-Fiを整備し、英語、韓国語、中国語、台湾語表記の案内サインを新たに設置した。

**4月8日** 亀山社中資料展示場が屋根や床下の補強と入口周辺を拡張して、リニューアルオープンした。

**4月9日** 核兵器廃絶と世界平和の実現を求める署名を国連欧州本部に届ける高校生平和大使の活動が20年目を迎え、大使OBらが「高校生平和大使の会」を結成した。

**4月9日** 深堀支所横の県警アパート跡地に「深堀ふれあい広場」が完成した。新たな地域の憩いの場として活用する。

**4月10日** 長崎電気軌道は、1954年製の車両をリニューアルした路面電車「みなと」の運行を開始した。JR九州の豪華寝台列車ななつ星in九州を手掛けた水戸岡鋭治氏がデザイン。外装は港町をイメージしたメタリックブルーを基調とし、内装は床やつり皮などに木材を多く使用している。

**4月14日** 2016年熊本地震の発生から1年を迎え、市消防局は午前10時から防災行政無線でサイレンを鳴らし、職員や市民が黙とうを行った。

**4月15日** 元捕虜の調査を続けている広島原爆の被

# 平成29年 長崎年表

爆者で歴史研究家の森重昭さんと協力者でオーストラリア在住のアンドリュー・カーターさんが国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館を訪れ、長崎原爆で被爆したオーストラリア人元捕虜の染色体を調査した論文の複写を寄贈した。

**4月17日** 伊藤一長前長崎市長が銃撃され死亡した事件から10年を迎えた。事件現場近くには献花台が設けられ、市職員や市民らが手を合わせた。

**4月18日** 市は、「地域コミュニティのしくみづくりに係る地域説明・意見交換会」を野母崎行政センターで開き、田上市長が「人口増の時代とは違う新しい地域の仕組みが必要」と呼び掛けた。今後市内16か所で開催する。

**4月18日** 中央公園の蒸気機関車（SL）の解体工事が始まった。車輪1対などは、救援列車の出発地であった長与町からの申し入れを受け無償譲渡する。

**4月20日** 長崎港一帯で、国内外の帆船が集まる「長崎帆船まつり」が開幕し、国内最大級の帆船「日本丸」など5隻が入港した。開催期間中5日間の来場者数は、約21万2,000人だった。

**4月21日** インド北東部ナガランド州出身の平和活動家ニケツ・イラル氏が長崎市を訪れ、原爆落下中心地碑に献花し、犠牲者を慰霊した。

**4月21日** 北九州市小倉北区の勝山公園で、訪れた人が長崎市の方角に向かってお祈りできるように原爆犠牲者慰霊平和祈念碑が移設され、移設記念式典が行われた。

**4月22日** 「暴力追放『いのちを守る』長崎市民集会」が市民会館で開かれた。集会後、参加者約1,000人が市中心部をパレードした。

**4月24日** 核兵器の禁止及び廃止を訴える「国際赤十字・赤新月会議」が26日までの日程で、市内で始まった。

**4月24日** 長崎歴史文化博物館の入場者数が600万人を突破した。同博物館は、2005年11月に開館。

**4月26日** 公募による選定を初めて取り入れた8月9日の平和祈念式典で「平和への誓い」を読み上げる被

爆者代表に長崎平和推進協会写真資料調査部会長の深堀好敏さんが選ばれた。

**4月27日** 市の観光親善大使「ロマン長崎」の2017年度選彰式が行われ、横川聖華さん、成枝麻美さん、清竹史苑さんの3人が選ばれた。

**4月27日** 三菱重工業長崎造船所香焼工場で建造した大型客船アイダ・ペルラ（約12万5,000総トン）が完成し、船主に引き渡された。三菱重工業は大型客船事業から撤退する方針を表明しているため、最後の大型客船の納入となった。

**5月3日** 核拡散防止条約（NPT）再検討会議の準備委員会で、田上市長は平和首長会議を代表して、核兵器禁止条約制定交渉への参加を核保有国や日本に求めた。

**5月9日** 市は相生町と上田町を結ぶ斜行エレベーター「グラバースカイロード」で、ケーブルの部分断線による整備工事のため、1階部分の運行制限を始めた。

**5月9日** 県は、ゴールデンウィーク期間中の県内主要観光施設30か所の集客数を発表した。企画展「ジブリの大博覧会」開催中の長崎歴史文化博物館がハウステンボスに次いで2位、グラバー園は3位だった。

**5月11日** 九州市長会は、熊本地震のような大規模災害時の相互支援プランを策定した。九州地方知事会と連携して、被災自治体ごとに応援県を割り振る「カウンターパート」方式を採用。迅速な調整で職員を現地に派遣する。

**5月19日** 国の文化審議会は、新たに指定すべき文化財に本河内水源地水道施設など9件を文部科学大臣に答申した。

**5月20日** 約3,800株のあじさいが市内を彩る「ながさき紫陽花まつり」が始まった。6月11日まで開催。

**5月22日** 市は2016年の観光統計を発表した。観光客数は、前年比0.4%増の672万3,500人で3年連続過去最多を更新したが、観光消費額は前年比4%減の1,313億7,850万円、外国人延べ宿泊客数は前年比8.2%減の31万386人でどちらも過去最高となった前年を下回った。

**5月22日** 市は市議会雇用・人口減少対策特別委員会

# 平成29年 長崎年表

で市内の主な事業所 171 社に尋ねた今春の U・I・J ターン新卒者の採用状況が前年比約 3 割増の 246 人で、2015 年の調査開始以来最高だったと報告した。

**5月23日** 市は、大雨と震度 6 強の地震発生を想定した総合防災訓練を琴海北部公園で行い、市民など 2,000 人が参加した。

**5月23日** 長崎大学は BSL4 施設を坂本キャンパスに設置する計画について、「世界最高水準の安全性確保」をうたう基本構想の素案を公表した。

**5月24日** 県市議会議長会は東京都内で九州新幹線西九州ルートの着実な整備など 22 項目を与野党の県選出国會議員に要望した。

**5月25日** 県教育委員会は教職員の長時間労働が改善しない現状を踏まえ、小中学校教職員を対象とした「超勤改善等対策会議」を初めて開き、長時間労働是正に向けた具体的取り組みを提案した。

**5月25日** 高校生平和大使派遣委員会は 8 月に国連欧州本部で核兵器廃絶を訴える第 20 代高校生平和大使を発表した。県内の 3 人を含め 15 都道府県から 22 人が選ばれた。

**5月25日** 原爆死没者名簿 175 冊の風通しが国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で行われた。名簿には昨年 7 月末までに死亡が確認された長崎原爆の犠牲者 17 万 2,230 人の氏名や死亡年月日などが記載されている。

**5月27日** 骨格標本をつくるために高浜町の砂浜に埋められていたザトウクジラの頭部が掘り起こされた。クジラは 2016 年 4 月に大籠町の海岸に打ち上げられたメスの子ども。胴体部分は長崎大学水産学部海棲哺乳類研究室で保管し、重くて大きい頭部は解体する環境がなく砂浜中の微生物に筋肉や脂肪を分解させていた。掘り起こした頭部と胴体とを合わせて骨格標本がつくられる。

**5月30日** 市は新庁舎の基本設計業務の受託者を発表した。公募型プロポーザル方式で業者を選定後、5月27日の最終審査会で四つの共同企業体 (JV) が公開プレゼンテーションを行った。設計案は 20 階の高層棟と 5 階の低層棟で構成されていて、市は 2017 年度中に基本設計等をまとめる。

**6月1日** 市は観光資源の夜景を活用しながら平和発

信を強めようと平和公園をライトアップする計画を明らかにした。2020 年度までの実現を目指す。

**6月5日** 8月9日の平和祈念式典で新たに奉安される原爆死没者名簿の記入作業が市役所で始まった。昨年 8 月以降に亡くなった約 3,500 人の被爆者の名前が書き加えられる。

**6月7日** 田上長崎市長と松井広島市長が岸田外務大臣を訪れ、国連本部で行われる核兵器禁止条約の第 2 回制定交渉に参加するよう求める要請文を提出した。

**6月7日** 日本原水爆被害者団体協議会は事務局長に長崎で被爆した木戸季市さんを選出した。

**6月9日** 市議会は大地震に備えた防災訓練を行った。熊本地震などを教訓に初めて実施、実際の本会議を終えた市議や市職員らが備え付けのヘルメットをかぶって机の下に潜り、議場の外に避難した。

**6月12日** 老朽化に伴い、2015 年 3 月に廃止された長崎市公会堂の解体工事が始まった。

**6月14日** 市民団体「ながさき市民オンブズネット」は 2015 年度に市議 31 人が政務活動費約 940 万円を不適切に支出したとして、市に住民監査請求した。

**6月16日** 核兵器禁止条約の交渉会議に合わせて渡米した広島・長崎の被爆者らが国連本部で会議の議長国であるコスタリカのホワイト大使に約 300 万筆の署名を手渡した。署名は 2016 年 4 月に始まった「ヒバクシャ国際署名」で、被爆者らが呼びかけ人になって核なき世界を求めて集めたもの。

**6月19日** 年金の請求手続きや加入記録の確認が無料でできる「街角の年金相談センター長崎(オフィス)」が千歳町にオープンした。日本年金機構が全国社会保険労務士連合会に運営を委託して県内では初めての開設。

**6月19日** 放射線影響研究所の丹羽太貫理事長が広島市で開かれた設立 70 周年の式典で、前身の原爆傷害調査委員会 (ABCC) の設立当初に被爆者から「調査すれども治療せず」との批判があったことについて、被爆者らに謝罪の意を示した。

**6月19日** 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) は 6 月時点の世界の核弾頭数が 1 万 4,900 発とする推計結果を発表した。

# 平成29年 長崎年表

**6月19日** 長崎汽船は長崎港と伊王島、高島とを結ぶ離島航路に新造高速船「鷹巢」(124ト)の就航を開始した。

**6月28日** 吉原日出雄市議が政務活動費からガソリン代を不正に支出していた問題で、長崎市議会は吉原市議に対する辞職勧告決議案を全会一致で可決した。

**6月29日** ドイツハンブルクのBSL4施設長ステファン・ギンター氏が田上市長を表敬訪問した。同氏は長崎大学のBSL4施設の設置計画についての専門家会議出席のため来日した。

**6月30日** ニューヨークの国連本部で行われた「核兵器禁止条約」の制定交渉会議に長崎市代表として参加し、演説を行った長崎原爆病院名誉院長の朝長万佐男さんが田上市長に現地での活動を報告した。

**7月1日** 2003年当時中学1年の男子生徒が4歳の男児を誘拐、殺害した事件から14年を迎えた。市は現場近くに献花台を設置、多くの人々が訪れ、手を合わせた。

**7月2日** 8月7日から10日まで開かれる平和首長会議総会を前に、市は、縦2.4メートル横3.6メートルの横断幕に平和への思いを寄せ書きするイベントをベルナード観光通りで開いた。

**7月3日** 厚生労働省は全国の被爆者健康手帳所持者に関する統計を公表した。2016年度末現在の長崎市の被爆者健康手帳所持者は3万813人だった。

**7月4日** 午前8時ごろ台風3号が長崎市付近に上陸。上西山町の諏訪神社近くでげ崩れが発生するなどの被害が出た。

**7月6日** 長崎で被爆した体験を当時14歳の少女がつづった手記「雅子斃れず」の著者柳川雅子さんが東京都内の自宅で、長崎原爆資料館に直筆原稿を寄贈した。

**7月7日** 核兵器を非合法化する「核兵器禁止条約」が国連本部での条約制定交渉会議で採択された。市は8日「被爆者と被爆地の平和を願う切なる訴えが世界を動かし、国連で、核兵器禁止条約が採択されました。」と記した看板を市役所本館に設置した。

**7月8日** 8月9日の長崎原爆の日を前に、市は平和祈念像を清掃した。

**7月12日** 「軍艦島デジタルミュージアム」を運営するユニバーサルワークーズは軍艦島をPRするゆるキャラ「軍艦島のガンジョーくん」を制作し、披露した。

**7月18日** 市教育委員会と福井県立恐竜博物館は、長崎半島西海岸にある約8,100万年前(白亜紀後期)の地層「三ツ瀬層」から中型の草食恐竜ハドロサウルス上科の歯の化石35点を発見したと発表した。

**7月19日** 国土交通省は、2022年度の九州新幹線西九州ルート暫定開業時に予定しているフリーゲージトレインの先行車導入について、1年以上遅れる見通しを明らかにした。

**7月20日** 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、長崎原爆の翌日に爆心地付近で撮影された写真「黒焦げの少年」とされる谷崎昭治さんの追悼記をまとめ、谷崎さんの妹の西川美代子さんと山口ケイさんに贈呈した。

**7月22日** 鳴滝地区で自治会が建立した「長崎大水害慰霊碑」の除幕式と犠牲者の慰霊祭が行われ、遺族や地域住民が参列した。

**7月23日** 長崎大水害から35年となり、田上市長は防災行政無線で、周囲の危険箇所や災害時の避難場所の確認などを市民に呼びかけた。大規模な土砂災害などで23人が亡くなった本河内4丁目の奥山地区では慰霊式が行われた。奥山自治会などが5年ごとに開いてきたが、自治会員の高齢化などにより最後の慰霊式となった。

**7月23日** 市消防局は管内の高校生を対象とした「消防防災サポーター」の養成講習を開き、46人が参加した。

**7月24日** 人気漫画「弱虫ペダル」の作者で長崎市出身の渡辺航さんが田上市長を訪問し、母校東長崎中学校で講演を行った。

**7月25日** 九州旅客鉄道は、収支採算性が取れないことから、九州新幹線西九州ルートへのフリーゲージトレインの導入を断念すると発表した。

**7月25日** ふくおかフィナンシャルグループと十八銀行は、2017年10月に予定していた経営統合について、公正取引委員会の審査が難航し、経営統合の時期を「未定」として再延期することを発表した。

# 平成29年 長崎年表

**7月26日** 長崎大学はインターネット上の宿泊予約やWi-Fiの接続データを利用し、宿泊施設の稼働率や外国人観光客の動向を即座に把握できる「観光活性化支援システム」を開発したと発表した。8月から運用を開始し、県、長崎市、佐世保市にシステムを無償提供する。

**7月28日** 市は、日本通運、ヤマト運輸、佐川急便3社と災害時に救援物資の荷さばきや輸送について支援を受ける協定を結んだ。

**7月28日** 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、厚生労働省が2015年の被爆者実態調査で集めた1万1,375人分の被爆体験記を60冊にまとめ公開を始めた。

**7月29日** 「長崎ペロン選手権」が長崎港で始まった。30日までの日程で合計41チームが参加した。

**7月31日** 不動産開発大手の森トラストは、南山手町の児童養護施設マリア園を改装して、外資系高級ホテルを開業する計画を発表した。

**8月1日** 9日の長崎原爆の日を前に、田上市長と野口市議会議長が日赤長崎原爆病院と恵の丘長崎原爆ホームを慰問した。

**8月2日** 長崎に原爆が投下された翌日の惨状を撮影した旧陸軍のカメラマン故山端庸介氏の生誕100年を記念した写真展が7日までの日程で市立図書館で始まった。また、6日には、山端氏の長男祥吾さんと長崎平和推進協会写真資料調査部会長の深堀好敏さんのトークイベントが行われた。

**8月3日** 日赤長崎原爆病院は2016年度に入院した被爆者の平均年齢が80.4歳で、初めて80歳を超えたと発表した。入院した被爆者は1,783人で全体の23%だった。

**8月7日** 第9回平和首長会議総会が10日までの日程で市内で始まり、国内外からの出席者が爆心地公園や長崎原爆資料館を訪れた。8日から10日まで5つの会議が開かれ、国連で7月に採択された核兵器禁止条約の早期発効を目指す「ナガサキアピール」を採択した。

**8月7日** 田上市長は平和祈念式典や平和首長会議出席のため長崎市を訪れている中満泉・国連軍縮担当上級代表と面談した。

**8月7日** 市民団体「ながさき市民オンブズネット」が2015年度の政務活動費について目的外や不適正として、約940万円の返還を求め住民監査請求していた問題で、市監査委員は市議20人に対し約103万円の返還を命じるよう田上市長に勧告した。

**8月8日** 平和祈念式典の「献水」に使用する水の採水が行われ、平和公園の「平和の泉」では、式典で被爆者や遺族代表と献水をする小中高校生3人が水を汲んだ。また、夜には原爆犠牲者を追悼する「平和の灯」が平和公園で行われ、県内外の子どもたちが平和への願いをこめて作った約4,000本のキャンドルに火が灯された。

**8月9日** 平和公園で営まれた平和祈念式典には、安倍首相など政府・国会関係者、核保有国を含めた58か国の代表、市民ら約5,400人が参列した。式典では、市長による平和宣言のほか、被爆者代表として長崎平和推進協会写真資料調査部会長の深堀好敏さんが「平和への誓い」を述べた。また、この1年間に死亡が確認された被爆者3,551人の名前を記した原爆死没者名簿4冊が納められ、奉安された死没者数は17万5,743人となった。

**8月11日** 核兵器廃絶を求めて署名を集めている高校生1万人署名活動実行委員会は、この1年間で集めた署名が過去最多の21万4,300筆となることを発表した。

**8月14日** 市は、訓練等給付費を不正に請求していたとして、「多機能型事業所ミント」を運営する指定障害者福祉サービス事業者「長崎総合福祉センター」に指定の取り消しを通知した。

**8月15日** 午前2時ごろ、香焼町のタクシー会社事務所裏の崖が高さ10m幅10mにわたって崩れ、駐車中のタクシー2台が損壊する被害が出た。市内では14日深夜から15日未明まで激しい雨が降り、一時土砂災害警戒情報が出されていた。

**8月15日** かつて米軍が原爆投下の第一目標地としていた北九州市の周辺5大学の学生ら7人が平和公園を訪れ、平和祈念像前で伝統芸能「小倉祇園太鼓」を奉納した。

**8月16日** 4月に開館20周年を迎えた市科学館の累計来館者数が300万人を突破し、記念のセレモニーが行われた。

**8月19日** 核兵器廃絶を求める署名をスイス・ジュネ

# 平成29年 長崎年表

ープの国連欧州本部に届ける本県の高校生平和大使3人の出発式が長崎駅で行われた。

**8月20日** 午後3時過ぎ界1丁目の市道で水があふれていると住民から市に通報があった。路面が直径3㍍、深さ2㍍に渡って陥没、現在は使われていない水道管の破裂が原因とみられる。

**8月25日** 市は、吉原日出雄市議が他人のガソリン代の領収証を使うなど、2015、2016年度の政務活動費4万7,419円をだまし取ったとして、長崎署に刑事告訴した。

**8月25日** 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、視覚障害がある被爆者の佐々木浜子さんの体験記を点字の本に仕立て、市に寄贈した。

**8月25日** 県は土砂災害防止法に基づき新たに長崎市の95カ所を土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域に指定した。

**8月26日** 核兵器廃絶を求める署名21万4,300筆をスイス・ジュネーブの国連欧州本部に届けた第20代高校生平和大使22人の帰国報告会が市内で行われた。昨年まで3年連続で行われた軍縮会議での演説は、今年も行われなかった。

**8月27日** 国指定史跡「出島和蘭商館跡」と対岸を結ぶ表門橋の開通を前に現地で見学会が行われ、市民約100人が参加した。

**8月30日** 長崎原爆被災者協議会会長で、原爆で大やけどを負った背中の写真掲げて国内外で広く核廃絶を訴えてきた谷口稜嘩さんが十二指腸乳頭部がんのため亡くなられた。88歳だった。

**9月2日** 長崎市名誉市民で、被爆者、医師として理論的に核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを訴え続けた元長崎大学学長の土山秀夫さんが多臓器不全のため亡くなられた。92歳だった。

**9月3日** 北朝鮮が6回目の核実験を行い、「大陸間弾道ミサイル(ICBM)搭載用の水爆実験に完全に成功した」と発表した。

**9月4日** 田上市長と市議団は、中村知事に対し、夜景の魅力向上のため公共施設や長崎港でライトアップを進めることなど20項目の要望書を提出した。

**9月5日** 市は長崎原爆爆心地から1.4㍍の距離にあり、被爆者の治療の拠点になった「浦上第一病院」の一部とみられる赤れんがの遺構が発掘されたと明らかにした。

**9月5日** 2018年の世界遺産文化登録を目指す「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」について、ユネスコの諮問機関「国際記念物遺跡会議(イコモス)」の現地調査が始まり、調査員が大浦天主堂と南島原市の原城跡を訪れた。

**9月6日** 市議会は定例会本会議で北朝鮮が6回目の核実験を行ったことに対し、核開発の即時放棄を求める決議と日本政府に実効性のある再発防止策などを講じるよう求める意見書を可決した。

**9月8日** 県は2017年1月1日現在の住民基本台帳に基づく人口で県内人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)が30.02㍍と30㍍を超えたことを発表した。長崎市の高齢化率は29.70㍍だった。

**9月8日** 市議会は議会運営委員会を開き、政務活動費の運用見直しを検討するため、全会派9人で構成する協議会を設置することを決めた。

**9月14日** 「長崎さるく」の地元ガイドの新規研修終了式が純心女子高で行われ、長崎純心女子大の学生ら55人がガイドの仲間入りを果たした。

**9月19日** 県は2017年の県内の基準地価を発表した。長崎市は中心部の平地で上昇したものの斜面地で落ち込み、市全体ではマイナス0.6㍍だった。

**9月20日** 核兵器を非合法化して廃絶を目指す「核兵器禁止条約」の署名式がニューヨークの国連本部で開かれ、署名した国が50カ国に達した。

**9月21日** 市は2016年7月にごみの分別方法を変更してから1年間の回収量が、燃やせないごみは前年比で22.6㍍減少し、燃やせるごみは前年比で1.3㍍増加したことを明らかにした。

**9月25日** 原爆の惨禍を伝えるために世界各地で開催している国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館主催の「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」がベトナム・ハノイの人文社会科学大学で始まった。ベトナムでの開催は初めて。

**9月25日** 仁田佐古小学校の新校舎建設予定地で見つ

# 平成29年 長崎年表

かった小島養生所の遺構の保存問題で、市議会は、学校建設を始める議案を継続議案とした。

**9月28日** 9月2日に亡くなられた長崎市名誉市民土山秀夫さんの長崎市と長崎大学による合同葬が市民会館で営まれ、約500人が参列した。

**9月29日** 市議会の2015年度の政務活動費のうち市監査委員が目的外や不適正とした約103万円の支出について、市は、指摘を受けた市議20人全員が指摘分の全額を自主的に返還したと発表した。

**9月30日** 坂本龍馬の没後150年にちなんだ企画展が亀山社中記念館で始まった。

**10月1日** 市は1日付の行政機能再編で、市内の支所、行政センター等を20カ所の「地域センター」に統一するとともに4カ所の「総合事務所」を新設。2日には各地域センターで開所式が行われ、業務を開始した。

**10月5日** 長崎夜景の「世界新三大夜景」認定5周年を記念し、長崎ロープウェイでは市民を対象に無料乗車を実施された。

**10月5日** スウェーデン・アカデミーは、2017年のノーベル文学賞を長崎生まれの英国人小説家カズオ・イシグロ氏に授与すると発表した。

**10月6日** ノルウェーのノーベル賞委員会は、2017年のノーベル平和賞を核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)に授与すると発表した。ICANは、核兵器の非人道性を訴え、日本原水爆被爆者団体協議会と連携して運動を展開していた。

**10月6日** 長崎原爆被災者協議会は、8月に亡くなった谷口稔暉会長の後任に副会長の田中重光さんを選出した。

**10月7日** 諏訪神社の秋の大祭「長崎くんち」が9日までの日程で始まった。今年解体された公会堂前広場に代わり、中央公園で初めて奉納踊りが披露された。今年の踊町は、馬町、東濱町、八坂町、銅座町、築町。

**10月9日** 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の入館者数が150万人を突破し、記念のセレモニーが行われた。

**10月10日** 長崎ペンギン水族館の新しいマスコット「ヒミちゃん」が市役所でお披露目され、市の観光大使に就任した。

**10月14日** 市は旧公会堂跡地で行っている「魚の町遺跡」の発掘調査について、現地で説明会を行った。町の境を示す「背割り溝」と呼ばれる石の列や江戸期のさいころや基石などが出土している。

**10月16日** 県教育委員会は外海地区の潜伏キリシタンが受け継いでいたとみられるキリスト教の絵画「無原罪の聖母図(聖母マリアの御絵)」を県有形文化財に指定した。

**10月22日** 第48回衆議院議員選挙の投開票が行われた。小選挙区の投票率は長崎県第1区が54.86%、長崎県第2区のうち長崎市域分の投票率が52.04%だった。

**10月24日** 市は、国連軍縮期間に合わせ、被爆建造物「三菱兵器住吉トンネル工場跡」の公開を始めた。30日まで。

**10月25日** 市は、8月30日に88歳で亡くなった被爆者の谷口稔暉さんに名誉市民の称号を贈った。市役所で行われた顕彰式には長女の寺坂澄江さんが出席し、田上市長が証書を授与した。

**10月27日** 2018年4月に開園60年を迎えるグラバー園の入園者が8,500万人を突破し、園内の旧グラバー住宅前で記念のセレモニーが行われた。

**10月31日** 長崎市は、長崎、広島両市がそれぞれ作成している「原爆死没者名簿」への名前の登載基準が両市で異なるとして、現行の登載基準を緩和する方針を明らかにした。

**11月1日** 長崎市戦没者追悼式が平和会館で行われ、遺族ら約420人が参列し、太平洋戦争などで亡くなった市内1万4,941人の冥福を祈った。

**11月1日** 旧城山国民学校校舎など国指定史跡「長崎原爆遺跡」の保存や継承の方法を紹介する企画展「長崎原爆遺跡 - 被爆継承のために -」が長崎原爆資料館で始まった。

**11月4日** 午後1時20分頃、銅座町の銅座市場でコンクリート製の通路や店舗の床が崩落し、市場関係者や

# 平成29年 長崎年表

客の6人が地下水路に転落、4人が負傷した。

**11月12日** 幕末の長崎に日本人初の西洋料理店を開いた草野丈吉の功績をたたえる銅像の除幕式が、グラバー園内の「自由亭」前で行われた。

**11月11日** サッカーJ2のV・ファーレン長崎は、諫早市のトランスコスモススタジアム長崎で行われたホーム最終戦でカマタマーレ讃岐に3対1で勝利し、来シーズンのJ1自動昇格を決めた。

**11月13日** 民生委員制度の創設100周年を記念した「長崎市民生委員・児童委員大会」が長崎ブリックホールで行われた。

**11月14日** 鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、九州新幹線西九州ルート開業に合わせた長崎駅の駅舎デザイン案を中村知事と田上市長に提示した。2階のホームの屋根は長崎港がある南側に向かって広がっていく構造で、海を望む開放的な空間を演出している。

**11月15日** 市は出島に新たに架かる表門橋側の公園の名称を「出島表門橋公園」に決定したと発表した。出島を眺めるウッドデッキやバリアフリーのトイレなどがあり、11月24日の橋の開通とともにオープンする。

**11月16日** 市は2016年10月に国指定史跡に指定された「長崎原爆遺跡」の保存や活用について検討する有識者委員会の初会合を原爆資料館で開いた。

**11月17日** 市民団体「養生所等遺跡の完全保存を実現する市民の会」は、仁田佐古小学校の新校舎建設予定地で見つかった小島養生所などの遺構の完全保存の賛否を問う住民投票条例制定を求める署名を市選挙管理委員会に提出した。

**11月18日** 8月30日に88歳で亡くなった被爆者谷口稜嘩さんをしのぶ会が市内で行われ、約100人が出席した。

**11月18日** 長崎水辺の森公園などを発着点とし、2017長崎ベイサイドマラソン&ウォークが18、19日の両日行われ、県内外から約5,300人が参加した。

**11月23日** 秋篠宮妃紀子さまとオランダ王室のローレンティン妃が爆心地公園を訪れ、原爆犠牲者を追悼し、原爆落下中心地碑に供花された。

**11月24日** 国指定史跡「出島和蘭商館跡」と対岸を結ぶ「出島表門橋」の完成記念式典が行われた。式典には秋篠宮ご夫妻や、ゆかり深いオランダ王室のローレンティン妃が出席、渡り初めを行われた。翌25日午前8時から、出島表門橋の一般供用が始まり、多くの市民らが橋の完成を祝った。

**11月24日** 市は、出島のオランダ商館医だったシーボルトゆかりの地であるライデン市と姉妹都市提携を結んだ。市議会議場で調印式が行われ、田上市長とライデン市のアンリ・レンフェリンク市長が提携書に署名し、握手を交わした。

**11月27日** 市選挙管理委員会は、市民団体「養生所等遺跡の完全保存を実現する市民の会」が仁田佐古小学校の新校舎建設予定地で見つかった小島養生所などの遺構の完全保存の賛否を問う住民投票条例制定に向けて集めた署名について、1万5,776人分が有効と発表した。

**11月29日** 2016年6月の脱線事故以来一部運行を見合わせていた長崎電気軌道の3号系統(赤迫-蛍茶屋間)が始発から運行を再開した。会社側はレールの設計を見直し、脱線した公会堂前交差点のカーブの半径を20メートルから35メートルに緩やかする工事を行った。

**11月30日** 丸尾町の三菱重工業長崎造船所敷地内のビル解体工事現場で不発弾1発が見つかった。

**12月1日** グラバー園で高さ約7メートルのクリスマスツリーの点灯式が行われた。ハウステンボスとの共同企画「光の王国 in グラバー園」の一環で、年内の17時から21時まで点灯。

**12月1日** 三菱重工業は、2018年1月1日に造船事業を完全子会社化して設立する2社を発表した。長崎造船所香焼工場を拠点とし、液化天然ガス(LNG)運搬船などを建造する三菱重工船舶海洋と船体ブロック製造の三菱重工船体を統合する「三菱重工海洋鉄構」と、横浜市に本社を置き長崎や本社の設計・営業部門と下関造船所の統括を行う「三菱造船」の2社。

**12月4日** 長崎市出身で近代統計の祖とされる杉亨二の没後100年を迎え、市は、長崎公園内の胸像の前で献花式を行った。杉亨二のやしゃごろ約20人が出席し、功績をたたえた。

**12月7日** 仁田佐古小学校の新校舎建設予定地で見つ

# 平成29年 長崎年表

かった「小島養生所」などの遺構の完全保存を求める市民団体「養生所等遺跡の完全保存を実現する市民の会」は、遺跡の完全保存の賛否を問う住民投票条例の制定を田上市長に直接請求した。

**12月8日** 県は「JR長崎本線連続立体交差事業」について、完成時期が当初計画の2020年度末から1年遅れて2021年度末となることを県議会環境生活委員会で報告した。

**12月10日** 2017年ノーベル平和賞の授賞式がノルウェーのオスロで行われ、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)にメダルと証書が贈られた。授賞式にはICANからの推薦を受け、長崎・広島両市長やカナダ在住のサーロー節子さん、日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳代表委員らが出席、サーロー節子さんが自らの体験を交えて演説した。

**12月10日** 2017年ノーベル文学賞の授賞式がスウェーデンのストックホルムで行われ、長崎市出身の英国人作家カズオ・イシグロさんにメダルと証書が贈られた。

**12月14日** 市議会は、11月本会議の最終定例会を開催した。仁田佐古小学校の新校舎建設地で見つかった小島養生所などの遺構の完全保存を問う住民投票条例制定案の採決は、反対多数で否決された。同条例案をめぐっては13日の市議会教育厚生委員会でも否決されていた。また、安倍首相や国会などに宛てた「核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書」についての議案は全会一致で可決した。

**12月15日** 市は、市内75の郵便局と地域の見守りに関する協定を締結した。2015年度に高齢者の見守りに関する協定を締結していたが、今回は子どもや障害者、道路の損傷、不法投棄など情報提供の範囲を広げた。

**12月17日** 陸上自衛隊の不発弾処理隊は、11月30日に丸尾町の三菱重工業長崎造船所敷地内のビル解体工事現場で見つかった不発弾の処理を行った。市は午前8時に現場から半径約500mを警戒区域に設定し、約1,100世帯1,900人に退去命令を発令、周辺道路の交通を規制した。午前10時から始まった処理作業は11時過ぎに終わり、11時20分に田上市長が安全宣言を出した。

**12月17日** 新日見トンネル下り線の着工式が長崎卸センター組合会館で行われた。

**12月18日** 原爆投下時に国が指定する地域の外にいたため被爆者と認められない「被爆体験者」388人が国と長崎県、長崎市に被爆者健康手帳の交付などを求めた第1陣訴訟で、最高裁第1小法廷は原告のうち387人の上告を退け、提訴後に死亡した男性1人については、原爆投下直後に長崎市に入り被爆した可能性があるとして審理を長崎地裁に差し戻した。

**12月19日** 長崎大学が坂本キャンパスに設置するBSL4施設について、地元住民らでつくる「BSL4施設設置の中止を求める自治会・市民連絡会」は、田上市長と面談し、同施設設置容認の撤回を要請した。

**12月20日** 県庁舎移転に伴い新庁舎に移転する県議会議場で、定例県議会の最終本会議が閉会し、県議会議場は64年の歴史に幕を閉じた。閉会後には、記念のコンサートが行われた。

**12月23日** 磨屋通り自治会は磨屋町のまちぶら広場に行燈と井戸を設置した。行燈と井戸の設置は市の「長崎市まちぶらプロジェクト」と「長崎創生プロジェクト」に認定され、田上市長が同自治会に認定証を贈呈した。

**12月24日** 尾上町の長崎魚市跡地に新しい県庁舎が完成し、落成式が行われた。8階建て行政棟と警察棟、5階建て議会棟、3階建て駐車場棟の4棟からなり、2018年1月4日から業務を開始する。また、12月28日には江戸町の県庁舎が最後の日を迎え、玄関前で閉庁式が行われた。